

# 第2回女性スポーツフォーラム 「私とボウリング」 須田開代子さん

一九九一年九月十二日  
東京芸術劇場会議室にて

前回同様、このページでは「女性スポーツフォーラム」の要約をご紹介します。

◇ 第二回女性スポーツフォーラム「私とボウリング」JLBC十五周年を迎えて▽講師▽ジャパン・レディーズ・ボウリング・クラブ代表 須田開代子さん▽聞き手WSFジャパン代表 三ツ谷洋子（一九九一年九月十二日、東京芸術劇場会議室）

◇ 〈講師略歴〉一九六九年、日本で初めて女子プロボウラーライセンスを取得。日本選手権をはじめ、これまで44勝を挙げる。七六年JLBCを結成し、代表としてボウリングの普及、振興に力を注いでいる。一九三八年生まれ。

三ツ谷「まず最初に、須田さんがボウリングをするようになったきっかけは。」「今から二十二年位前、外資系貿易会社のOLとして働いていた頃、たまたまその会社がボウリングのボールを輸出していたことから、初めてダイナマイトみたいなボールを目にした訳です。その頃から日本にもボウリングセ

ンター（以下BC）がで始め、一般の人にもボールが売れるようになり、その販売のために社長命令でボウリングをやらされるようになったのです。初めて投げた時のスコアは89。見た目にはすごく簡単そうに見えるスポーツなのに思うようにいかない。これが生来の私の負けん気を奮いたたせたん



▲ 須田開代子さん(右)と三ツ谷洋子代表

です。その後、OLをしながら練習をして二年後に神奈川県アマチュア1位になりました」

三ツ谷「その後、すぐプロに？」

「私が神奈川県で1位になった時、日本から一名、米国の大会に出場する話が来て私選ばれました。でもわず

か一年位のキャリアですから本場米国ではビリから一番目。次の年は少し上位になったもののまだまだ壁は厚くて。そして三年目の時、米国の大会出場権をめざして、九州の中山律子という人が上京して東京タワーBCで特訓をしていてというニュースが入ってきたんです。その時私は、きっと彼女はこれからのライバルになるナ」と予感したので。案の定、その年は彼女と私の一騎討ちになり、大逆転で私が出場権を得ました。三回目は国内で良きライバルを得て、接戦の末代表になった訳ですから、そこその成績を残さないとい井の中の蛙になってしまう。その年は国内のトーナメントを捨て、米

国で勝てるボウリングに徹しました」三ツ谷「その結果は？」

「忘れもしないマイアミ・フロリダの大会で予選を1位で通過。米国では大騒ぎでした。勝ち進んでサウスポールの米国選手とのTVマッチ。勝てば三百万円、2位でも百万円の賞金。当時の日本での私の月給が二万四千円の頃の話ですよ。もう、さすがにビリマした。結果は残念ながら2位に終わりましたが、百万円の賞金を獲得した時

「こんな大金を手にしてアマチュアとはいえない。帰ったら女子プロを作ろう」と心に決めた訳です」

三ツ谷「その頃、日本の男子プロはもう誕生していましたね。」

「ええ、二年だけ遅れて女子プロができました。私が米国での快挙を遂げなければ女子プロの誕生はもっと遅れていただろうと思います」

三ツ谷「そしてプロボウリング全盛時代を迎える訳ですね。」

「そうですね。あの頃のプロ、特に女子プロについては今のアイドルどころじゃない。もう日本全国を秒刻みで飛び歩いていましたからね」

三ツ谷「でも、あれほどまでに人気のあったボウリングがサーキットと波が引くように消えてしまった。」

「あの爆発的な人気は、まず目新しいスポーツであったこと。若者男女ができるスポーツ、しかも家の近くですぐできる。そんなスポーツは少ないですよ。でも美味しいものを毎日食べてると飽きると同じで。そしてオイルショックの影響やらでレジャーに対する評価も変わりました。日本人は儲からなくなるとサッと手を引きます」

三ッ谷「さて、肝心のJLBCに話を移します。まず設立のきっかけから。」

「あれだけ人気のあったボウリング熱がすっかりさめていた頃です。私たちが自身はすでに三十歳を過ぎて結婚し、子供がいる人もいましたし、個人的にはさほど落ち込んではいなかったんですね。でも、大好きなボウリングが消えていくのは淋しかったし、お世話になったボウリング場に恩返ししたいと思って『女性を集めて何かをやろう!』と藤原清子プロと設立を決めました。一九七六年十一月のことです」

三ッ谷「当初のJLBCの目標は?」  
「まず、ひと集めでした。意外なことをやらなければ人なんて集まらない。そこで以前お世話になった植木等さんに協力してもらって歌謡ショーをやり、そこでボウリングをする! でもお金がない団体でしたからみんなでガリ版刷りをしたり、センター近くの家に一軒ずつチラシを投げ込んだり…それはもう手作りのひと集めでした。でも当日は三百人以上の人が集まり、大成功でした」

三ッ谷「次のステップというのは?」  
「JLBCは何なのか? 何を目的としているのかという原点です。手作りの企画で人は集まった。でもこれを継続させていくには夢がないとダメだということになったのです。そんな折り、スポニチの一面に西武の堤義明さんが横浜球場を買って新しい球団を作

るってという記事が載っていたんです。

その時、面識もない堤さんだったんですが、考えてみれば品川プリンスホテルのオーナーでボウリング場もある。この人なら大会の賞金一千万円ぐらいポーンと出してくれるんじゃないか…なんて思い、すぐ電話しました。ところがさすがにVIP。なかなか会えない。結局、スポーツ関連担当者から堤社長に伝えていただく形ではありましたが、私たちの熱意が通じて、翌年プリンスカップというプロアマの大会が実現しました。当時の他の大会の三倍以上の賞金総額ですから業界をびっくりさせました」

三ッ谷「須田さんの情熱とすばらしい行動力が女子ボウリング界を支えているといっても過言ではないですね。」

「十五年とは一口でいっても女性だけで少ないスタッフでよくやってこれたと思います。辛い時は『始めたからにはやめられない』というプライドと、自分の利益を度外視して大好きなボウリングのために行動を起こす。各自が自分がやらなくては…と情熱をもち続けてきたことが十五年の歴史を生んだんだと思います。組織はトップが情熱をもち続けないとダメです。それと何とかなるさ…位の楽観的な心構えと、それを支えるためにとにかく「頑張ろう」と励まし合うこと。十五年たった今も有言実行に追いまわられる毎日です」

# 感動新

時間の奥にある感動も、計りたい。

JB525-05



OFFICIAL TIMER

## SEIKO

選手は一度しか走らない。

SEIKOは'92バルセロナオリンピックの公式計時を担当します。

株式会社 服部セイコー  
SEIKO CORPORATION